■ 柏谷メソッド 令和4年度予備試験 / 令和5年度司法試験合格者インタビュー（Aさん:匿名希望）

[インタビュアー]
本日の合格者インタビューでは、令和4年に予備試験、令和5年に司法試験に合格されたAさんにお話を伺います。Aさん、よろしくお願いします。

[Aさん]
よろしくお願いします。

[インタビュアー]
それでは早速ですが、自己紹介をお願いします。

[Aさん]
関西の私立大学を卒業した後、そのまま同じ大学のロースクールに通い、令和4年のロースクール最終学年に予備試験に合格して今年の司法試験に合格しました。よろしくお願いします。

[インタビュアー]
ロースクールの在学中に予備試験に合格されたということですが、挑戦してみていかがでしたか。

[Aさん]
予備試験を受けようと思ったのは大学2年生のときで、勉強を始めて4回受験してやっと合格できたので、かなり厳しい道のりだったなとは思っています。

[インタビュアー]
合格できてよかったですね。

[Aさん]
そうですね。

[インタビュアー]
合格するためのご自身の課題、ここを鍛えないと駄目だと思っていらっしゃった箇所はどんなところでしょうか？

[Aさん]
まず、僕は大学時代に予備試験の短答式に合格することができませんでした。まず短答式ですごくつまずいたなという印象があります。

[インタビュアー]
なるほど。なぜ短答式が厳しかったのでしょうか？

[Aさん]
一般教養で本当に得点できなくて、60点中10何点みたいな状態が4回ともでしたので、それで法律科目である程度点を稼がないといけないというところで苦労したかなと思っています。

[インタビュアー]
そうだったんですね。柏谷講師の講座と出会ったきっかけは何だったのでしょうか？

[Aさん]
一般的な予備校の入門講座を受講した後、これからどうしようかなと思っているときに、この講座の先輩の渡辺さんというかたから柏谷先生の講座を使って合格したよというお話を聞かせていただきました。それで自分も聞いてみようと思い受講しました。

[インタビュアー]
渡辺さんはどのような点をおすすめされていましたか？

[Aさん]
問題文の読み方や答案の書き方など、知識以外の面もしっかり教えていただけるとおすすめされ、そのようなテクニック的な部分もしっかり学んでいきたいなと思いました。

[インタビュアー]
実際に柏谷講師のインプット講座を受講していかがでしたか？

[Aさん]
入門講座と比べてかなりレベルが高いなというのが最初の印象です。深く深く教えていただけるので、理解がすごく進むなと思いました。

[インタビュアー]
深くというのはどのような意味でしょうか？

[Aさん]
他の予備校さんだと「こういう判例だからこういう規範を覚えましょう」と教えてくれるのですが、柏谷先生の講座は、「なぜこの規範が出てくるのか」「どういう利益考慮でこういう規範が出てくるのか」を教えていただけるので、応用がききやすいところがこの講座のすごいところだと思います。

[インタビュアー]
背景の部分までしっかり教えてもらえるのですね。

[Aさん]
そうですね、それは大きいと思います。

[インタビュアー]
しっかり理解したうえで覚えると応用もききやすいですね。

[Aさん]
そうですね、本当にそう思います。

[インタビュアー]
他に、インプット講座のことでとてもよかったなと思う点はありますか。

[Aさん]
インプットと言いながらも、事例問題などを考える場面が用意されているので、自分の頭で考えながら聞いているうちに同時にアウトプットもしている感じになるところです。アウトプットの時間を別で設けることを特にしなくても合格できました。

[インタビュアー]
一方的に覚えさせられるわけではなく、聞きながら自分でも考えられるのですね。

[Aさん]
それができると思います。

[インタビュアー]
アウトプット講座のほうはいかがでしたか？

[Aさん]
アウトプット講座は、どこまで書けばいいのかを教えていただけるのが大きかったです。ロースクールの授業は出題趣旨や採点実感のような、完璧な答えを書くことを要求されますが、柏谷先生の場合は「いや、これは書けないね」などをはっきりおっしゃってくれます。どれくらいできれば合格できるのかのゴールをしっかり示していただけるのがすごくいいところだと思います。

[インタビュアー]
完璧なところまで目指さなくても、どこが合格ラインかを把握できるということでしょうか？

[Aさん]
そうですね。それを示していただけると、本番で完璧を目指さなくていいと思えて心の支えになったと思っています。

[インタビュアー]
プレッシャーが軽減されますね。

[Aさん]
わからない問題があっても、「他の人もわからないからいいや」と、気楽な気持ちで受けていました。

[インタビュアー]
心の余裕に繋がったのですね。

[Aさん]
そうですね。

[インタビュアー]
ロースクールでの勉強にもこの講座を活用されていましたか？

[Aさん]
ロースクール時代もこの講座をずっと聴き続けていました。ロースクールは予習が大変とイメージされることが多いですが、僕の場合は特別な予習はせず、柏谷先生の講座の中で（ロースクールの）次の課題の該当の箇所を聞いてから授業に臨む形が多かったです。

[インタビュアー]
聴いたうえで授業に臨むと、違いましたか？

[Aさん]
全然違うと思います。周りの人と理解の深さが違うので、先生から当てられてもその場で考えて回答すれば特段困ることはなかったです。

[インタビュアー]
それは素晴らしいですね。

[Aさん]
そうですね、すごく助かっていました。

[インタビュアー]
うまく活用されていたのですね。他の予備校や教材と比べて、他にも本講座の魅力が何かあれば教えてください。

[Aさん]
まず一番大きいのは、論証を暗記しなくていいところです。かくいう僕も、柏谷メソッドにはない労働法を選択科目として選んでいたため、別の予備校も使っていたのですが、論証を覚えてそれを使って答案を書くというのは応用がきかないので、試験当日、労働法だけはすごく不安だったことを今でも覚えています。暗記せずにその場で考える力を養えるこの講座はすごくよかったなと思います。

[インタビュアー]
他の予備校との差がはっきりと実感できたのですね。

[Aさん]
そうですね、その科目だけすごく不安でした。そのような不安がないだけで自分の実力を出せるか出せないかが変わってくると思います。

[インタビュアー]
心の余裕というのは自分の本領を発揮できるかどうかと関係してくるのですね。

[Aさん]
それはすごく思います。

[インタビュアー]
ちなみにその労働法の結果はどうでしたか？

[Aさん]
予備試験に受かってから司法試験までの間、他の7科目と労働法の勉強時間はおそらく1対1ぐらいの割合だったにもかかわらず、労働法はそんなに順位がよくなかったので、コストパフォーマンスの意味でもそんなによくなかったかなと思います。

[インタビュアー]
逆に、他の科目は効率的に学修ができたと言えそうですね。

[Aさん]
そうですね。ロースクールというとずっと勉強していないといけないとか、予備試験に受かるには四六時中勉強しなければいけないというイメージがあると思います。僕もやるときはしっかりやっていましたが、たとえば冬はスキーに行ったり、夏休みは旅行に行ったりと、結構楽しみながらロースクール生活を送ったうえで予備試験にも合格できました。柏谷先生のこの講座だけやればいいと、明確にその範囲を指定していただるのが安心にも繋がりますし、計画的に勉強できたかなと思っています。

[インタビュアー]
とても理想的な学生生活を送れたのですね。

[Aさん]
結構楽しかったですね。

[インタビュアー]
しっかり楽しんでしっかり学ぶことができましたね。

[Aさん]
はい、そうだと思います。

[インタビュアー]
この講座を受講する前に課題と感じていた点について、そもそも短答式が駄目だったとおっしゃっていましたが、それはすっかり克服できましたか。

[Aさん]
この講座を聴く前は短答式試験もすごく暗記に頼っていたなと思っていて。あの分厚い過去問集をガチで覚えようとしていたのですが、柏谷先生の講座を聴いてからは自分の頭で考えるようになりました。なぜこの回答になるかを考えて取り組むので、定着もすごくよかったなと思います。

[インタビュアー]
実際、その分厚いものを丸暗記しなくても合格できるものなのでしょうか？

[Aさん]
先生の講座の内容をしっかり理解するだけで、あの分厚い過去問も結構解けてしまうので、わざわざ暗記する必要はないかなと思います。

[インタビュアー]
知識で勝負するのではなく、理解力で勝負できるのですね。

[Aさん]
それが大きいと思います。

[インタビュアー]
本講座を受講するなかで、これはいけるなと手応えを感じた瞬間はありましたか。

[Aさん]
ロースクール1年目に予備試験の短答式に初めて受かり、その後論文を受験したのですが、そのときの成績が400人弱合格する中で1400位くらいの惨敗でした。その後の冬は結構頑張って講座を繰り返し繰り返し聞いて勉強し、ロースクールの最終学年に上がったタイミングで1個上の学年の司法試験模試を受けてみたら合格点より上にいけたので、「ついに自分も司法試験で戦える実力がついたのかな」と思いました。

[インタビュアー]
「これならいけるぞ」と思ったのですね。

[Aさん]
そうですね。1年前の時点でこれなら司法試験はいけるかもしれないという思いはすごくありました。

[インタビュアー]
実際の成績はどれぐらい変化しましたか？

[Aさん]
ロースクール1年目の予備試験の論文の順位は1400位台だったのですが、次の年は230位台で、1年で1200人程度を抜くくらいの上昇はありました。

[インタビュアー]
劇的な変化ですね。

[Aさん]
その年は模試の順位も去年より100点上がるなど、劇的に変わったなと思います。

[インタビュアー]
その結果を見てどう思われましたか？

[Aさん]
自分が解いている感じとしても不安がなく、自信もあったので、やはりそういうところが結果に繋がったと思います。

[インタビュアー]
解いてる最中から手応えはあったということですね。

[Aさん]
そうです。予備試験に受かるか受からないかはわからなくても、去年よりいい戦いができているという手応えはずっとありました。

[インタビュアー]
実際は想像以上によい結果が出ましたね。

[Aさん]
 そうですね、ちょっとびっくりなところもありました。

[インタビュアー]
よかったですね。

[Aさん]
はい。

[インタビュアー]
柏谷講師の教えの中で、何か印象に残っているものや心に残っているものはありますか？

[Aさん]
常々、先生が言われていたのは「完璧なんて無理なんだよ」ということでした。「君たちが書ける枚数は5枚から6枚だよ」と言われていましたが、予備校の解答例などでは8枚以上が書かれている。やはり、現場で書ける現実的な答案を常に意識することが大事だと、ずっと心に秘めて勉強していました。

[インタビュアー]
それはとても重要な教えですね。

[Aさん]
ロースクールへ通っていると、ゼミを組んで周りの人の答案を見る機会があるのですが、「（実際の試験で）書けもしない枚数をなんで書いているのだろう」と思うことはすごく多かったです。

[インタビュアー]
完璧を目指して無理をし、結局ボロがたくさん出てしまう状況ですよね。

[Aさん]
そうですね。普段から意識していないと本番で途中で終わってしまうことになるリスクは大きいです。やはり常日頃から意識することが大事だと思います。

[インタビュアー]
そういったことは他の予備校ではなかなか教えてもらえないのでしょうか？

[Aさん]
他の予備校の解答例を見させていただく機会もありますが、やはり完璧なものが書かれていて、妥協を一切していない。それが完璧、それを目指さないといけないという思いで勉強してしまうとやっぱり苦しいし、本番でもそういうボロが出てくるのかなと思います。

[インタビュアー]
そこに書かれているような完璧なトーンでないと合格できないと思い込んでしまいますよね。

[Aさん]
そう思い込んでしまうと（合格までに）回数がかかってしまったり、受からなかったりという現象が生じてしまうのかなとは感じています。

[インタビュアー]
かなり効率的に勉強を進められていたようにお聞きしましたが、学修をつらいとか無理だと思うことはなかったのですか？

[Aさん]
大学4年生のときに予備試験の短答式に受からなかったときは、正直、ロースクールに進学するか悩みました。でも夢を諦めたくなかったのと、今から7月や8月から就活してもちょっと厳しいなという思いがあったので、それならロースクールに行ってもう1回頑張ろうと進学しました。

[インタビュアー]
諦めなくてよかったですね。

[Aさん]　そうですね、よかったと思います。

[インタビュアー]
柏谷講師の講座に出会えなかったら、やはり少し厳しかったでしょうか？

[Aさん]
あの膨大な量を暗記できるほどの暗記力は僕にはないので、何回も何回も受験回数がかかってしまったか、下手したら受からなかったなと思います。

[インタビュアー]
そうですか。暗記が厳しいかたにおすすめの講座だということでしたが、他にはどのようなかたにおすすめですか？

[Aさん]
受験回数がかかってしまっているかたにすごくおすすめしたいなと思います。要するに、知識じゃないところで皆さんがご苦労されているんじゃないかなと、ロースクールで見ていて思ったからです。受験回数がかかってしまっているかたに特にすすめたいなと思います。

[インタビュアー]
知識じゃないところでというと、完璧を目指さないこと以外にどのような点が重要ですか？

[インタビュアー]
　柏谷先生がよくおっしゃっていたのは形式面ですね。きちんと三段論法を組めているか、問いにしっかり答えられているか、当たり前のようで意外と意識できている人は少ないと思います。そのようなところを直すだけで受かってしまう人はおそらく多いので、そのためにも柏谷メソッドを受講してほしいなと思います。

[インタビュアー]
ポイントを外さないことが重要ですね。

[Aさん]
司法試験の問題にはいわゆる誘導といわれるものがあり、きちんとした問題の見方をすれば気づけるのですが、なかなか気づけなくて（合格に）回数がかかっている人も多いと思います。

問題の読み方というものを習得するために柏谷先生の授業を受けるのは非常にいいことだと思います。

[インタビュアー]
この講座では、そのような現実的な読み方もしっかり指導してもらえるのでしょうか？

[Aさん]
そうですね。過去問の解説では柏谷先生が実際に問題文を一緒に読んでくださり、どこで正しい論点に気づくべきかや、「こういう問いにはこう答える」といったやり方を教えていただけます。

[インタビュアー]
Aさんは見事合格をされたわけですが、今後、法曹の資格をどのように生かしていくおつもりでしょうか？

[Aさん]　僕はいわゆる町弁というものになりたいなと。人に寄り添っていける法曹になりたいなと思っています。

[インタビュアー]
楽しみですね。

[Aさん]
そうですね。

[インタビュアー]
最後の質問です。この動画をご覧の皆さんや、これから受講を検討されているかたに向けて何かメッセージやアドバイスがありましたらお願いいたします。

[Aさん]
司法試験を受けるためには受験資格を得る必要がありますが、ロースクールを卒業するのも大変だと思いますし、予備試験はかなり合格率が低くて大変で、地頭が必要なのではというようなことがまことしやかに世間では言われています。柏谷先生の講座を聞けば、法律をしっかり理解して自分で論文を書けるようになります。何より大切なのは先生を信じて最後までこの講座と走り切ることです。法曹になりたい思いが少しでもあるのでしたら、先生の講座を受講して先生と一緒に最後まで頑張ってほしいです。

[インタビュアー]
回数を重ねて自信がなくなっている人も、諦めたくない気持ちがあるならぜひ試してみてほしいですね。

[Aさん]
そうですね。僕は現に頭はそんなによくありませんし、いい大学を出たわけでもないのですが、最後まで先生を信じて走り切ったら合格できました。僕にもできたので皆さんもできると思います。諦めずに頑張ってほしいなと思います。

[インタビュアー]
合格、本当におめでとうございました。本日はお話を聞かせていただき、どうもありがとうございました。

[Aさん]
ありがとうございます。